

目次

巻頭言 学校長 西山忠実

一年生作品

俳句の部 4

詩の部 4

雲 竹内政仁
川 光浪博好
国道53号線 中谷隆人
冬の夜 栗谷聡子
しびれ 上田和江
お母さんの手 伊縫由美
最後の雪 山本謙二
タイムマシン 奥田俊範

二年生作品

俳句の部 19

詩の部 20

春のにおいがする 下田京子
しゃくなげ 中塚清美
川 長谷幸子
冬 下田美佐江
一本道 上田基生
ふきのとう 大野寿慶
もうすぐ三年生 有田志津枝
雪解け水 田中慎二郎
旅人 田中明雄
二月のある日 上田行宜

三年生作品

俳句の部 30

詩の部 30

シャボン玉 中谷雅枝
朝やけの中で 下田公子
人生のページ 岡村美千世
シャボン玉 岡村信子
ボールと思い出 中谷雅枝
聞け文明人 谷口秀範
道 光浪信雄
人形 中谷裕見恵
いろどられた一日 谷上里美
人の心 中谷なをみ

雪 竹本祐子
冬の星 長谷善幸
老人 下田麗子
冬げしき 井上真美
夕日 下石勝子

作文の部 10

強くたくましく 田中和枝
楽しい学級を作ろう 長谷善幸
おじいさんの死 栗谷聡子
理想の人間 上田清美
しゃんしゃん祭り 青柳みどり
二学期への出発 北尾まり子
犬 西田律子

教室のごみ 光浪とも子
夕焼け 西尾芳昌
夜空 西尾俊二
春だというのに 藤原るみ子
旅の重さ 上南里美
かがみ 井本 泉
雪 岡村恭一郎

作文の部 26

私の父 田中明雄
大山登山 有中伊豆美
はくろ 上田秀美
話し合い 前田里美

僕の道 奥田雅史
刻まれる時間 上田真佐子
旅立ち 中谷静代
春 小谷龍夫
明暗 上紙 誠
涙のいたずら 上田由美子

作文の部 38

卒業を前にして 岡村美千世
卒業を前にして 村中一仁
私たちの意見 40

深夜放送について 徳山隆則

私服について 岡村 浩

実力派、学歴派 西尾敏之

本当のよさとは 奥田雅史

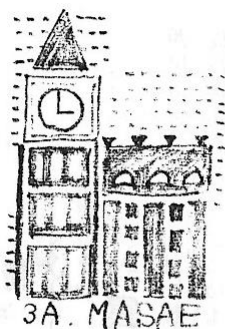
公害問題 小谷広子

バレーの思い出 中谷雅枝

満足感 上田広行

卒業生のことば 46

編集後記 50



学校行事	4/12 3 年生中・四国方面修学旅行、5/1 3 年生飯盛山遠足、5/7 校内陸上競技会(於第 1 小)、6/15 村プール開き、7/3、8/17PTA 奉仕作業 7/2?~8/2? 夏季休業、8/22 県教委校舎耐久度調査、9/8 生徒会主催運動会(外来者なし)、10/19 PTA 奉仕作業、12/26~1/11 冬季休業、1/9 新寄宿舎「栃実寮」完成、1/19 文部省指定道徳研究小発表会、3/14 就職者激励会、3/16 第 26 回卒業式
出来事	【日本】5/15 沖縄本土復帰、6/11 田中角栄『日本列島改造論』、9/29 日中国交正常化、2/14 円為替変動相場制へ移行【世界】6/17 ウォーターゲート事件発覚、9/5 ミュンヘンオリンピック村襲撃事件、12/19 アポロ計画終了
流行	【ヒット曲】女のみち、瀬戸の花嫁、さよならをするために、喝采、旅の宿、悪魔がにくい、結婚しようよ、ひとりじゃないの、別れの朝、太陽がくれた季節、夜明けの停車場、芽生え、友達よ泣くんじゃない、雨、せんせい、学生街の喫茶店、喝采、危険なふたり、神田川、心の旅、恋する夏の日、わたしの彼は左きき、草原の輝き、ちぎれた愛、赤とんぼの唄、てんとう虫のサンバ 【言葉】あっしには関わりのねえことでござんす・お客様は神様です・わんぱくでもいい、たくましく育ってほしい・ギャル・のんびり行こうよ・若さだよ山ちゃん・ナウ・恥ずかしながら帰って参りました・三角大福・日の丸飛行隊、うちのカミさんがね・せまい日本、そんなにいいでどこへ行く・ちょっとだけよ・3 分間待つのだぞ・今なんでしょうか・オイルショック・ツチノコ・タバコする・ゴミ戦争・決まってるね千葉ちゃん 【テレビ】太陽にほえろ、必殺仕掛人、ムーミン、飛び出せ!青春、木枯し紋次郎、科学忍者隊ガッチャマン、マジンガーZ、刑事コロンボ、子連れ狼【映画】『仁義なき戦い』 【本】恍惚の人(有吉佐和子)日本沈没(小松左京)
この年の初登場	カシオ計算機「カシオミニ」発売(※世界初のパーソナル電卓)、ジャイアントパンダ初来日(日中国交正常化を記念して「カンカン」と「ランラン」の 2 頭が上野動物園に贈呈された)ツクダオリジナル(現・メガハウス)「オセロ(ボードゲーム)」発売、ソニー「TC-2850SD(カセットデンスケ)」発売、漫画「はだしのゲン」連載開始
この年の物価	米価 60 kg 8,880 円 ガソリン 1L58 円 コーヒー1 杯 115 円 味噌 1kg162 円 しょうゆ 1L138 円 砂糖 1kg151 円 葉書 10 円 封書 20 円 サラリーマンの平均月収 140,062 円

◇ 巻頭言 ◇

「山峡の子」第二十二号

祝 発 刊

校長 西山 忠 実

今ここに発刊された文集は、いま現在から見ればすでに古いものである。このことにおいても今流に批判するならば「古いものは駄目だ」と簡単に言えるかどうか。ともかく、この文集は少くとも生徒諸君の力いっぱい作品であるならば前言、全く取り消されるべきである。それ故にこの文集が何十年先に、君たちがひもとくとするならば、なおさら、「古くてやぼだ」とは、少なくとも君たちは言えないはずだ。

そこで私は古語に言う「温故知新」という諺を今一度確認してみたらどうか：：と云いたい。すなわち読んで字のごとく「故きを温ねて新しきを知る(作る)」とでも解せられるならば、故(古)きことがあってこそ、つまりこの事柄を十分検討批判してこそ、新しい創造と関連できるものであって、新しきが無から有に突然創られるものではないと思う。されば、君たちが作ったこの文集は、まことに大切な「故」であって、これを読むたびに生きている感激にひたひたより楽しい「新」生活の息吹きを作り出せるならば幸いである。

どうか愛読かたがた大切に保存されんことを切にお願いする次第です。

三年生作品

俳句の部



ねこやなぎかおりもせぬに春を見る
春の朝小鳥さえずる楽しそう
芽を出した小さきつくし土手でつむ
冬終わり春が来るぞと鳥の声
冬すぎて春もまじかにふきのとう
春くればうぐいすさそう梅の花
早春や冬のあしあとまだ残こる
雪どけに草が芽をふく春近し
初雪に緑わすれた野山かな
佐治川に白き雪降り水もすむ

沢田潤子
西村礼子
上田広行
下田儀明
山本 節
中村正樹
中谷幸隆
小谷広子
中谷雅枝
北尾泰志

詩の部

シャボン玉

三A 中谷雅枝

潮騒をのがれて
このせまあい教室に たった一人ぼっち
すてきな夢をみました
麦わらの先からとび出る虹色の風船に
いろーんな私が映っていました
あんまり気もちよすぎるそよ風に
心を奪われて
先生そっちのけの私
机にうつぶせになって高いびきの私
みんなに心配かけちゃった泣き虫の私
いいとこなしの私だけ
いつまでもこわれてほしくない
いつまでも
私だけの心の日記帳の中で
遊んでちょうだい

朝やけの中で

三A 下田 公子

朝やけの中で
未来へ旅だちたい
汚れをしらない
わたしだから
誰にもいわずに
そっと
青空がまっている
あの美しい街へ
朝やけの中で
ただひとり
未来へ旅だちたい

人生の一ページ

三B 岡村 美千世

今、私たちは
人生の一ページを
読み終えようとしている

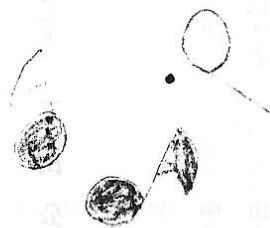
その一ページに
数々の思い出を残して
読み終えようとしている

あの大空に向かって
翼を広げ
まっすぐ飛んで行きたい
悲しかったら
心の底から泣き
うれしかったら
心の底から喜びたい
どんな困難にも負けない
強い意志を持ちたい
そんな希望と
限らない明日への
挑戦を胸にだいて
そして
第二ページを
めくろうとしている

シャボン玉

三B 岡村信子

シャボン玉飛んだ
私の夢をつめた
小さなシャボン玉
私の願いをつめた
大きなシャボン玉
私の夢がこわれないように
私の願いがかなうように
いつまでもいつまでも
飛びつづけておくれ
私の小さなシャボン玉
私の大きなシャボン玉
飛びつづけておくれ
いつまでもいつまでも



ボールと思い出

三A 中谷雅枝

体育館の片すみに
たった一つ残されたボール
そっと拾い上げ
忘れかけたパスをしてみる
なつかしい思い出が
空を舞うボールのように
次から次へと
あざやかに 描かれる
あの暑いさ中
ほこりまみれでレシーブしたこと
体中が重たく感じられ
家に帰るのが精いっぱいだったこと
先生に何度も何度も注意されながら
それでも上手になれなかったパス
ひざをすりむいて、血がにじんだこと
ともに苦しみ、感動したあの仲間
私のこのすばらしい思い出が
一つ残さず
このうすよごれたボールにぎざまれている

聞け文明人

三A 谷口秀範

どうして生きていくことがいけないんだよ
どうして殺されなきゃならないんだよ
みんな生きていたいのに
そうさ みんな生きていたいんだよ
だから殺すのも殺されるのもいやなんだよ

お前ら 言葉もってるだろ
言葉は何のためにあるんだよ
殺しあわなくなつて
傷つけあわなくなつて
言葉で解決すりゃいいじゃないか
それができないような言葉ならすてちまえ
ちくしょう 文明人面しやがって
見ろ 原始生活をしているものたちを
「戦い」や「怒り」って言葉を
持っていない種族だっているんだぞ
それを野蛮人だつて
お前らの方がもっと野蛮さ

道

二B 光浪信雄

明るくって楽しい道
苦しくってけわしい道
えらぶのは
だれも同じ
明るく楽しい道
でも苦しくけわしい道こそ
人生ではたいせつです
それが未来の希望につながる
道がいっそう明るくなるんです
苦しうってけわしくとも
未来の幸を願って
進むべきなのです

人形

三B 中谷 裕見恵

私は人形が好き
でも私は人形になりたくない
自由を失ない
ただ着かざっている人形に

私は人形が好き
でも私は人形になりたくない
美しい真心を失ない
毎日、泣いている人形に
でも、なぜかひかれる
遠くでだれか呼んでいる
耳もとでそっとだれかささやいて
私には、わからない
だれがささやき、呼んでいるのか

私は人形が好き
でも私は人形になりたくない
ゆくえを失なった人形に

いろどられたいちにち

三A 谷上里美

やたらとねむたい朝
ベージュ色の光

ため息ばかりの昼

涙をこぼすための夜
オリブ色の月

いろどられたいちにちのおわり

だからせめて
色のないねむりがほしいのに

あなたは
今夜また紫色の夢を
私の目の前にはこんでくる

人の心

二B 中谷 なをみ

あなたの母が 人に
あなたの事をいくら自慢していても
今は、あなたは何も知らないだろう
あなたから見れば、いい母にしか見えないと思う
でも人は、あなたを

そんなあなたの母を ある意味で
どんなつめたい目で見ているのか
どんなつめたい心で見ているのか
今のあなたは何も、知らないだろう
それを知った時

あなたは、どんな気持ちになるのか
私には、まだわからない
今は これでもいいかもしれない
けれど

あなたが人の前に出る時
身にしみるほど
今の私のつらい気持ち
わかってくれる日が
いつかわ来ると思う、きっと

僕 の 道

三B 奥田 雅史

ただひたすらに
この道を歩いて来た
あとに残らないこの道を
ただひたすらに……

なんのきなしに
歩いて来たこの道だけど
僕に多くの教訓をあたえてくれた
なんの気なしに歩いて来たはずなのに……

外の世界が知りたくて
この道をそれたときも
この道がいやになり
ぬけだした時も

いつも僕の前にあったのは
……この道だった
……これからも大切にしたい……



刻まれる時間

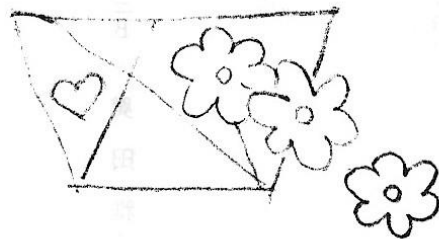
三A 上田 真佐子

刻まれる時間は、一人ぼっちの時
せまくて白いお城の中で
アルバムをめくり
何することもなく
思い出にひたる私
誰か 私の心のとびらに
ノックして下さいませんか
刻まれる時間は お別れの時
大好きな友達とも遠く離れ
一人で青春の汽車に乗り
旅立つ私
あの人はいつまで
私の友達でいて下さるのかしら
刻まれる時間は メロディーにさそわれる時
草原を駆けていると
どこからか知らないけれど
かわいいエンジェルが

旅立ち

三A 中谷 静代

大きな旅立ちをする私
だから
力強く踏み出そう
だれよりも
でっかい足跡を残し
りっぱに成長した私たち
だから
大空にはばたこう
手を取りあい
みんなそろって
みんなの出発だから



春

三B 小谷 竜夫

春が来ていろいろな花の芽
いろいろな木の芽が
頭を出している
その頭もときおりふく北風に
ふるえている北風のふかない
春がやってくる
その日を思いながら
芽は北風にたえている

涙のいたずら

三A 上田 由美子

もうお別れの時
「さようなら」と言わなければ
でも涙が……
涙が、そのときをじゃまするの
さようならと
ひとことだけでもいわせてくれないの
涙は

明 暗

三A 上 紙 誠

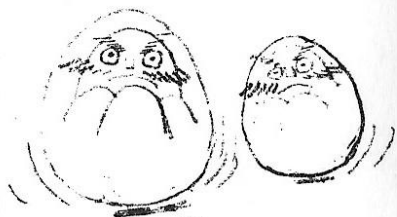
人間はみな光である
そしてまた影でもある
光の後に影ができる
それが人間
この世に生まれてきたさだめなのだ
影の中からまぶしい光にむかって
人間はいつも はばたくのだ
それが人間の真の姿だ

未来の希望への楽しみの涙は
よいことが得られる涙なのです……
だから未来の希望の涙が
きつと、さようならと
言わせてくれないのです
そして、今涙にさからい
さようならといったら
涙がいたずらして許してくれないでしょう

作文の部

卒業を前にして

三B 岡村 美千世



2B 西尾 宏

中学生生活の最大の思い出は、やはりなんといっても修学旅行です。親のもとから離れ、集団生活を身につける修学旅行は、とても私たちにはいろいろなことを教えてくれました。宇野と高松を結ぶフェリーボートに乗って海をながめたことは最高でした。ずっと海を見ていたら海の中にとけこんで行くような感じにさえなり、深いところまで見えそうでした。しかし、瀬戸内海は今ではきかない海だそうです。周囲はいくらきれいでも、海がきたなくてはせっかくの旅もゲッソリです。もっとも日本各地の海を公害から守り、魚も死んでいかないうに、きれいな海そして環境を私たちの手でつくる義務があると感じました。又、日御碕もたいへん雄大な感じで、とう台に登ってみたかったです。日程に登ると

いうことはありませんでした。このとう台に登れなかったことが、修学旅行の中で一番残念なことでした。広島原爆ドーム原爆資料館も、深く私の心に焼きついています。

そして第二番目の思い出は、入学式でした。やっと自分のことは自分でできるようになった小学校を卒業して今度は一段上の中学校に入学した時は、本当に足はがくがく、胸はどきどき、『これから先どんなことがあるんだらう。つらい時や苦しい時は、たち直ってまっすぐに進むことができるだらうか。友達ができないんじゃないだらうか』と、とても不安で、そして興奮状態でしたけれど、先輩や先生や友だちのおかげで、ぶじ中学三年間おえそうです。ほんとうに今思えば、入学式がこの間のこのように思えてなりません。不安の気持ちの反面、『もしかしたら、私にすばらしいことが待っているんじゃないだらうか』と希望の気持ちがあったことも感じられました。

先生にしかれました。友だちとけんかしました。まちがった答えを述べてみんなに笑われました。その時はほんとうに、『なぜこんなになるんだらう。私ってやっぱりダメな人間なんだ』と、一時は自分に対して絶望的にさえなりました。今の私から思えば、そんなことは

人生の苦しみにくらべて、全くくらべものにならないとわかっていきます。だけど人間って、いろいろな苦しみや悲しみをたくさん経験して、ほんとうに成長していくんだなと思いました。その苦しみや悲しみを克服してこそ人間らしい人間になるのだとも思いました。ある本で読んだのですが、『人生とは苦しみからの逃避ではない。苦しみへの挑戦である』と書いてありました。このことばのごとく、私も人生の苦しみに対して挑戦したいと思っています。中学三年間、いろいろなことを教えられ、やっとここまでたどりついたのですが、これらの経験を大事にし、それをもとにして、社会に出てからも、社会のために貢献できるような人間になりたいと思っています。

卒業を前にして

三A 村中 一仁

あとわずかで入試、卒業をひかえて、過去をふりかえってみる。三年前の四月、ぼくたちは中学校に入学したそれから三年間、長くて短い三年間、いろんなことがあった。

まず最初の一年間、よく失敗しましたが、勉強やクラブ

活動にも力を入れた。友人関係も豊富になってきた。小学の時に比べて、心が明るくなったような気もする。入学後しばらくして万博旅行に行った。その時は友だちもあまりいなかったのですが、今から思うとたいしたことはなかったように思うが、一年生の時の気持ちになってみると、希望に満ちて、何かを期待して、胸をわくわくさせていたようにも思う。家に帰るのがつまらなくて、暗くなるまで学校でばれていたこともある。とにかく楽しくてたまらないという一年間だった。

二年生の時には、いちばん大山登山が印象に残っている。登る時のえらさ、登ってからのなんともいえない気持ち、いまでもはっきり覚えている。少し、だらけきみの時期だったようだ。

三年生の時はもちろん修学旅行、三日間ずっとよい天気に恵まれての船の旅だ。船の上からただ海をながめていたり、写真を撮ったり、宿屋から夜遅くまでばれたりした。たったそれだけのことがとても楽しかった。特に印象に残ったのは夜の宮島だ。暗やみの中からくっきり浮かび出た鳥居、宮島から見た広島島の夜景はなんともいえなかった。修学旅行が終わるとあとは勉強、入試までにはまだ一年もある、半年もあると思っているうちにもうここまで来てしまった。

思えばこの三年間、いろんなことを悩みました。勉強その他うまくいなくてひどく悩んだこともある。異性を好きになったこともある。ほかに楽しいこと、つらいことなど、思い出はたくさんあるが、この思い出一つ一つを大切にしていきたいと思う。

これからの人生には、いろんな苦難が待ちうけているだろうが、それらを克服して前進あるのみ。卒業を前にして過去をふりかえると同時に、ぼくはこのように思う。「人生は道路のようなものだ。いちばん近道は、ふつういちばん悪い道だ」



私たちの意見

深夜放送について

三A 徳山 隆 則

現代の中学生、高校生などは、ほとんどの人が深夜放送を聞いていると思う。大人の多くは深夜放送なんか聞かないで勉強しろというだろう。

でも聞く理由も考えてほしい。理由には自分のまわりに悩み等を相談する人がいないのでDJに手紙などを出して相談すると自分のことのように親身になって相談にのってくれる。友達がいなくて寂しいから、夜は無気味で何か音がしていないと不安だから、放送を聞くのが楽しいから、などがあると思うがほとんどの人が勉強をしながら聞いているだろう。

このようなことも考えてから深夜放送について言ってみよう。

また、これ以上に考えてほしいことがある。それは深夜放送がある時間まで勉強しなければならない今の学校

のことに付いてである。

私服について

三A 岡村 浩

ぼくは今の学校に着ていっている制服をまだ早いかもしれないけど私服にかえたらいいと思っている。

制服はみてもなんとなくパツとしないしおもしろくもなんともない。でも制服も悪いところばかりではないところもある。

たとえばみんなが同じ服だから私服のように人よりいい服をきてこようというような競争心というようなことは出てこないと思う。でも、ぼくは制服より私服のほうが絶対にどうしてもいい。そんなに毎日制服のように同じ服だったらあきてしまう。私服だったら自分が気に入った服をずっと着て来てもいいしそれがあきたらほかの服にでもかえられるからとってもいいな。

都会のほうの学校は制服をやめて私服にしているところがたくさんあるのに、やっぱり山奥のいなかだねエ。それから帽子をかぶるのもあんまり好きではないね。普通授業以外の特別な日とか、行事のある日は規律がみ

実力派?・学歴派?

三A 西尾 敏 之

この前、テレビで、「出世するには実力と学歴とどっちがたいせつか」ということについて、実力派と学歴派に分かれて論争していたから、これについて考えてみた。

今社会では、「学歴がなければ出世できない」と言っている人がいる。ぼくもやはりそうだと思う。高校卒業と中学卒業では出世のはやさがちがうそうだ。しかし、学歴をとるために、みにくい受験戦争や裏口入学ではないとしたとしてもしかたがないと思う。

学歴は大切だといったが、実力で成功している人もたくさんいる。そのいちばんよい例が、田中総理大臣である。あの人は実力があつたからこそ、あそこまでなれたのだと思う。

今までの総理大臣で、田中さんの他にもうひとり早稲田出身がいるだけで、あとは全部東大出身だという。さすがにこれには実力派もこまっていたが、ぼくはそうは

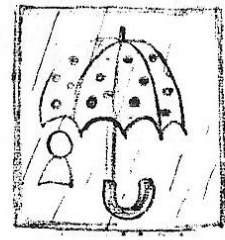


思わない。今までたいてい東大出身できていて、絶対学歴派ということになっていたが、田中さんのことで、それがくつがえされ実力が重要視されるかもしれないではないか。

以上のことで、ばくは学歴派とも実力派とも言えないが、これからはこの実力と学歴が両方そなわってこそ、りっぱな人になれるのだと思う。

本当のよさとは？

三B 奥田雅史



私たちは、とにかく外見だけにとらわれやすく、決して真実を知らうなどと思いません。テストがいい例です。点を多くとった人は頭がいいと思われ、点が少ししかとれない人はバカだ、と、思われがちです。ではあるひとりの人がテストを二度うけたとしましょう。初めは多く点をとったとしましょう。するとみんなは、あの人は頭がいいと思うでしょう。では二度

目のテストで少ししか点をとれなかったとしたらどうでしょう。この人は頭がよくなったり、悪くなったりするのでしょうか。こんな質問をしたらみんなの中には、「テストの点が変わったけえってわかるわいや」と、言う人がいると思います。ではこれが初対面の人ならどうでしょう。「この人はどちらだ」と、はっきり言うことができるでしょうか。決していえるはずがありません。

僕の場合にもこれと同じようなことがあります。

僕には現在、五人の好きな女性があります。ひとりは美人だからという理由ですが、この人は好きというより、つきあってみたい、話をしてみたいという気持ちの方が強いようです。なにしろ口も聞いたことのないような人です。そのうちの三人は、話などいろいろ会話をかさねているうちに、のこりのひとりは、何となく。一年生のころは、全部、きれいだとか、かわいいで好き、嫌いを決めていた僕ですが、三年間のうちに大きく変化しました。それは外見ばかりみていた僕が、相手の心の底まで見るようになったことです。この変化によって僕は人間的に大きく成長したような気がします。

世の中の多くの人に僕はいいたい。本当のよさとは前から見ただけでわかるものではない。あらゆる角度から見たときにはじめてわかるものだ、ということ。

公害問題

三A 小谷広子

公害と、という言葉、テレビ、新聞でよく耳にする。ほんとにいやな言葉だ。

私達は、小さな村に住んでいるが、公害なんてなくて川の水もすみ、回りが緑におおわれて、いつも新鮮な空気をすって生活をしている。

都会へ出ると、工場のでるけむりで、空の青が見えない。どうして、こんな所で生活しているんだろう。早くひっこして、空気のいい所に住めばよいのに、と、よく思う。

都会は、安心して歩けないほどだ。

今は日本は、緑をつぶして工場を、どんどん建てている。緑が少なくなっている日本に、こんなにまでして、工場を建てなければ、いけないのかと思う。

日本人が休養するために、心のやすまる、公園、緑の遊園地をふやしたらと、私は思う。

公害と戦っている人もいる。「工場を建てるといけない。緑も少なくなっている。病気にもかかっている人がいるんだ」と、呼びかけて反対運動している。私は、そ

うだなと思って、応援している。そして、日本に昔のようにすみきった空と、緑の山々が、もどってくるようにと私は祈っている。



バレーの思い出

三A 中谷雅枝

放課後の体育館、暖かい春の日差しを浴びた床に、後輩の打つボールがたたきつけられる。うすよごれたボールを拾い上げ、忘れかけたパスを試みる。ボールは思うように飛ばない。足も動かない。あまり上手になれなかった私だけど、私がボールにかけた熱意は、決して忘れることができないだろう。空を舞うボールのごとく、思い出が脳裏を駆けめぐる。

あれは夏の盛りを越えた九月の終わりのことだった。私はある人との友情を裏切って、バレー部にはいることを決心した。バレーはもともと好きだったし、同級生の中では身長も高い方だったので、父や先生に勧められたら、どうしてもやりたくなったのだ。(生まれつき何で

もやってみたい性質だったからだろう)しかし、私は、数カ月いっしょにクラリネットを吹いた友だちを、一人残し、自分の好きな道に進んだ。この時、ある先生が、「二人とも、やる事は違うけれど、お互いに一番になれる」とおっしゃった。

始めのころは、玉ひろいばかり。でも私は玉ひろいぐらいでねを上げるのも、玉ひろいだからといってなまけるのも、大きらいだった。時々もたせてもらうボールでパスをすると、なれないせいか、つき指はしょっちゅうやっていた。しかし、私は不器用なので、そのわりに上手になれなかった。そして、友だちが、一人、二人とやめていくのも寂しかった。

それから、先生に注意されるのは、毎日のことだった。どうしても上手にならない自分がいやになって、一人で泣いてしまったこともあった。「どうしたら上手になるのだろう」と、毎日あれこれやってみた。が、どうにもならないので、「やめてしまおうか、自分にはクラリネットの方がむいているのでは……」などと考えたこともあった。でも次の日の放課後には、やっぱり体育館でボールをもっていた。私は、ほんとうにバレーが好きだったし、二度も友だちを裏切ることはできなかった。

あいかわらず先生は、ジャンプの位置やアタックのタ

イミングが悪いと注意された。そして悪いアタックの見本だとも言われた。そんな私にとってもすばらしいことが起こった。それは、三年生が修学旅行に行っている時だった。私達だけで練習をやっていると、いつもできないアタックが左のコナーにビシッときまったのだ。私はとっもうれしくて、飛び上がりたくらいだった。それから練習が楽しくて、先輩も「雅枝ちゃん、このごろ上手になったなあ」なんて言ってくれた。私から絶対バレーははなせないものになった。

そして、私が初めて選手にいられたのは、二年の春の時のことだ。といっても補欠で試合に出たわけではないが、私には忘れたい思い出である。背番号はたしか「11」だったように記憶している。試合の思い出なら新人戦も忘れられない。なにしろ私たち新しいチームの初めての試合に、予想外、二回戦に進めたのだから。ひざをすりむいて、何度も血がにじんだこと。鼻血でジャージをよごしたこと、夏の炎天下、汗びっしょりほこりまみれで練習したこと。仲間とけんかしたこと。いくら書いても書きつくせない私の心。いいえ私だけでなく、三年間いっしょにバレーをした、あの仲間もきっと同じ気持ちだろう。

中学校生活で最も楽しく、すばらしく、充実した時を

満足感

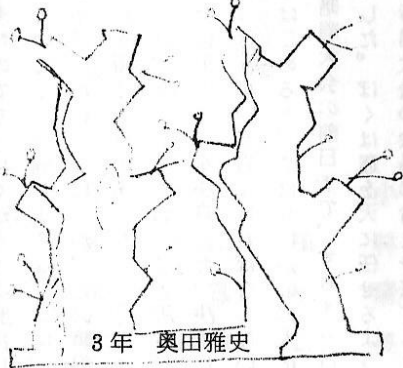
三A 上田 広行

この三年間の中学生生活というものは、ぼくにとても生忘れることのできない日々であったように思う。それというのも、ぼくには、何か一つこの手につかんだものがあるからだ。これからそれを述べようと思う。

三年生になって、そろそろなれかけるところでした。ぼくを含む三人は、小林先生に英語の暗唱大会に出ないかと勧められました。そのことを考える期間は、夏休みの前から終わるまでぐらいでしたから、約一ヶ月半あったと、ぼくは記憶しています。

いよいよ長い夏休みも終わって、二学期が始まりました。先生は、また、三人を呼んで、最後の決意を聞かせてくれるようにいわれました。ぼくの心には、まだ二つの心がまよっていました。ぼくは、一日まっもらいました。家に帰ってからも、そのことばかり考えて、母にも父にも相談せず、ぼく一人の意志で、その二つの心は一つにまとまったのです。ぼくの力は、あとの二人にはとうていかなありません。だから、ことわろうと思いまし

そして後輩の手で
もっともっとすばら
しい思い出がしるさ
れようとしている。
私は、生涯この思
い出とバレーを忘れ
ない。



3年 奥田雅史

た。しかし、そこで考えたのです。ぼくが大きく成長した時、今ぼくがまよっていることと同じようなことに、必ずずぶちあたると思う。しかし、今ぼくが、この暗唱大会によって、もし何かを得ることがあったら、今度ぶつかってくる困難なことは、少しでもやわらぐと思う。だから、ぼくは暗唱大会に出ることを決意した。決意したかぎりには、いっしょうけんめいやらなければならぬ。しかし、いったんやりはじめると、やはりほかの二人には、おくれをとった。暗唱大会の前日まで、すらすら言えないようなしまつでした。ぼくは運を天に任せるような気持ちで、とうとう暗唱大会の会場の台まで来てしまいました。そこに上がった時の気持ちは、死刑台に上がったような気持ちでした。しかし暗唱をしているうちに皆の顔もわかるようになりました。やっと暗唱も終わったのに、少しも満足感はない、あふれてはきません。成績はまあまあでしたが、何かぼくには、まだ満ち足りない気持ち、心のどこかに残っていました。しかし、どうしてか知らないが、家に帰ってみると、その気持ちも、解決していました。今考えると、きっと「人のためではなく自分のためなのだから」という意味が、その時には、わかっていたのではないかと思えます。

暗唱大会に出たことが、ぼくにとって、どれくらいプ

ラスになったかは、わかりませんが、この三年間に、何か一つつかんだ、という満足感だけは、味わうことができました。

人のためでなく、自分のために力いっぱい、自分の力をふりしぼってやった後の満足感を。

卒業生のことば

苦しさを求め、そこには幸福がある。

田中 みずほ

始めは、協力でよい。が後には努力でなければならぬ。

中谷 なをみ

人生は出会いと別れのくりかえしだ

中谷 裕美恵

人生は、努力、根性、苦しい坂道を一步一步登るように

西尾 佐恵子

千里の道も一歩から!!

福田 康子

苦しみの中でみつけた幸せは、自分の身となる。

藤原 牧美

前田 さえ子

いかなる山道も歯をくいしばって、がんばろう!!。

前田 寿恵子

前進一歩のみ。千里の道も一歩、前進一歩のみ!!。

上紙 誠

死、生、それは人生、人間

上田 広行

偽りは、真の反対であり、誠の反対でもある

岡村 浩

あこがれ・孤独・別離

下石 明義

何事も前進あるのみ

小林 清美

顔ではない努力だ

下田 浩二

過去の経験こそいかして出発しよう。

下田 政雄

人生に今日という日はない。一日一日を大切に、一步一步前進して栄光の座をつかもう!!

下田 儀明

男の一念、岩をもとおす。

人生には明日という日はない。

田中 好喜

我が青春の夜明け

谷口 秀範

人は努力によって進歩する。立ち止まらなければならぬこともあるだろう。だが努力は怠ってはならない。

徳山 隆則

二度とない人生を、一步一步、あゆんでいこう。

中谷 幸隆

人生の楽しみは幸福であり、だれでもその幸福をつかみたい。

西尾 敏之

青春は長い人生の一部である。しかしそれをむだにしたものは、一生悔いるだろう。

村中 一仁

人生でもっとも重要なことは、苦難に打ち勝つことである。

山本 節

一日一日を有意義にすごそう。

井上 珠美

生きて行くことは、世の中の悲しみを知るためかも知

れない。けれど決して後悔のないように強く歩んで行く。

大きな夢をもて、そして希望への道に向かって前進。

人は思想なくして生きてゆけない。しかし想像に酔うものは現代には生きてゆけない。

奥田順子
気持ちを、おちつけて、希望に進もう。

刈田厚子
苦しみを受けて、明日へ向かおう。

小谷広子
苦しみのあとには必ず幸福がくる。

沢田潤子
人並みのことはやりたい。しかし人並みはずれたこともやりたい。

下田公子
幸福は努力なしでは得られるものではない。

田中幸子
前進、あるのみ。

田中千枝
足もとを忘れて仕事の成功はない。

谷上里美
春風以て人に接し、秋霜以て自らつつしむ

中谷静代
真実一路、前進!!

中谷雅枝
精神一到、何事かならざらん。

西村智昭
前進あるのみ。

西村礼子
一日一日を大切に悔いのない生活を過ごそう

光浪 あけみ
若さをもって、どんな困難にも真正面からぶつかってゆこう。そして、どんな時でも自分自身をいつわらないようにしたい。

奥田雅史
今、戦わずして、明日の戦いはない。

小谷 三千歳
人生は努力、根性あるのみ。

下田 智明
目標は、ただ一つ……。そして、それを達成するためには、執念の鬼となり、ひたすら前進あるのみ!!

福田靖彦
進歩のあるものは、いつまでも幸福への道が開ける。

西尾正寿
がんばろう!!

竹本洋実
努力こそまばゆい一等星への道

平尾俊行
いかなる場合でも、博愛、勇氣、そして、努力、自信を持って進もう。

光浪 信雄
苦難こそわが道

竹内国夫
自信を持って突き進もう。

小谷竜夫
人生はけいりゅうのごとく流れる

北尾泰志
人生とは、生きるとは、自分の道をただひたすらに、歩むことである。

山本幸一
栄光は努力のかたまり。

井上雪枝
人生の道ははてしなく長い

上田純子
私は自分の前にいつも壁がある事を望む。それがどんなに厚く、どんなに高くても、よじ登って行く。苦労なくして、楽があるものではないのだ。

遠藤長美
努力してこそ栄光がある

岡村信子
苦しみの中にとびこめ

岡村美千世
人生とは、苦しみからの逃避ではない。苦しみへの挑戦である。

岡村裕子
努力、しんにもとめよう。

岡本マリ
たおれても、たおれても、おきあがるまで何度でも

小谷 美紀枝
未来はわからない今、自分がどう生きるべきかだ。ただ前進するのみである。

竹村裕子
希望の光に満ちた青春を、悔いなく進もう。まっすぐに

田中 貴美子
求めよさらば与えられん。たたけよさらば開かれん。

編集後記

小川の岸にかわいらしい蔭の臺がそと顔をのぞかせる頃、本校の文集「山峡の子」は毎年発刊されるのですが、今年もその通りになりました。

二六人の若人の考えと感じを、見方を文字に託して作られたこの文集は全生徒の作品を余すところなく掲載するつもりでしたが、紙数の制約から涙をのんで割愛しこのような少数の作品しか載せられなかったことは、まことに残念でなりません。しかし、この作品はいずれも生徒それぞれの考え方をそのままに手を加えないでのせ生きた肌を感じたほんとの気持ち達が卒直に表現されていると思います。

視聴覚文化、映像文化のみに流されつつある現代の世相の中にあって、少しでも文字文化を考え、それを自分の手でできずきあげようと努力した結晶の一つであるこの文集は、こんな意味ではほんとうに貴重なものだと思います。いつわらない自己の心を、詩に、作文に、あるいは寸言に表現することは、考えることを忘れがちな現代の私たちに必要不可欠のものであり、すばらしい人間をつ

くりあげる上で、大変重要なことだと思っています。最後に編集にあたって諸先生の絶大な援助がありましたことを感謝しまして筆を置きます。(福安 修)

この文集の編集にあつた文化委員

顧問	藤田光江	杉本正光
加藤祐志	北尾まり子	
国広昇	谷上真知子	
上田行宣	青柳恵美子	
福安修	下田ゆり子	
小谷龍夫	岡本マリ	
下田政雄	奥田順子	

勝利の歌 (応援歌)

- 一 燦たる栄冠我に輝き
歌え若人勝利の歌を
熱き血潮に燃ゆる若人
勝ちたり今ぞ今ぞ勝ちたり
- 二 我ら称えん勝利の時を
聞け高らかに歌う凱歌を
月の冠は我らの頭上に
勝ちたり今ぞ 今ぞ勝ちたり

熱血燃ゆる (応援歌)

- 一 熱血燃ゆる 我が選手
汗と涙の 結晶を
示さん時は 今なるぞ
母校の榮譽を 双肩に
力の限り いざ競え
- 二 精気あふるる 我が選手
今日のある日を胸に秘め
あまたの試練を堪え忍び
鍛えに鍛えし力技
燃ゆる若さでいざ競え
- 三 黒金のごと我が選手
正義を愛し選法の
スポーツマンシップの体现者
これぞ榮えある我がホープ
力と技をいざ競え

佐治健児の歌 (応援歌)

- 一 三国おろしが吹きなびく
背には中国山脈を
眼下に清き佐治の友
流れに育つ佐治の友
いざ奮い立て佐治健児
- 二 朝に夕べに仰ぎみる
高き希望の峰々が
我らを強くさとすなり
励みすすまん佐治の友
いざ奮い立て佐治健児
- 三 高嶺の百合の美しく
その香満ちたる佐治川は
我々乙女の誇りなり
気高く咲けよ佐治の友
いざ奮い立て佐治健児

日頃鍛えし (応援歌)

- 日頃鍛えし健脚を
試すは今日の今なるぞ
勝つかぶとの緒をしめて
奮えふるえ
あなうれし 喜ばし戦い勝ちぬ
あなうれし 喜ばし戦い勝ちぬ
実力ついに成功し
予期の大勝 あなうれし
佐治中健児の生粋は
それここにありこを見よや
その名も高き佐治中は
威風堂々あたりをなぎたおし
それがんばれ佐治勝てよ
それがんばれ佐治中よ

昭和四十八年三月十五日 印刷
昭和四十八年三月十五日 発行

編集

発行所

印刷所

八頭郡佐治中学校
生徒会文化委員会
八頭郡佐治中学校
生徒会
智頭加藤印刷所
電話チズ五〇七五六